

Japan Digest No.9

2009年7月18日(土)

INPEA 日本国委員会会員各位
第4回 WEAAD 参加者各位

梅雨が明け、猛暑の日々が続いておりますが、皆様におかれましては、ますますご健勝のことと心からお慶び申し上げます。

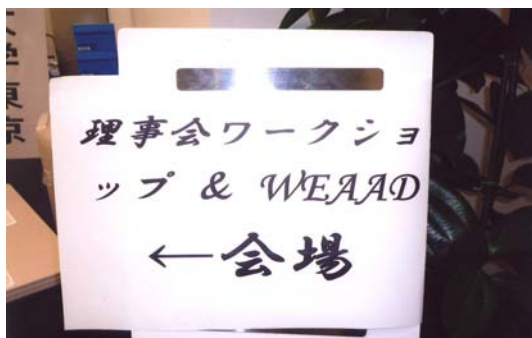
世界 50 カ国にネットワークを持つ、INPEA(高齢者虐待防止国際ネットワーク)の日本国委員会事務局は、去る 6 月 14 日(日)に、**第4回目の「世界で高齢者虐待を考える日」(The Fourth Annual World Elder Abuse Awareness Day:WEAAD)**[※]のイベントを日本高齢者虐待防止学会理事会企画ワークショップと同時開催で開きました。今年は、合同イベントのおかげで、大学研究者や看護師さん、そして、介護現場の職員、自治体職員の多くの方々に、北は金沢、西は、四国や広島から遠路はるばる集まっていただきました。おかげさまで、過去最高の 57 名の参加者数となりました。日曜日にご参加くださいます、心よりお礼申し上げます。

本ジャパン・ダイジェスト 9 号では、大変遅くなりましたが、その第4回 WEAAD のイベントの様子および、それに先立ちまして韓国で行われた韓国主催の INPEA の第4回 WEAAD のイベント、そして、2 週間前(7 月 5 日から 9 日まで)フランスのパリで開催されました第 19 回の世界老年大会(IAGG)における INPEA の会合の様子を、写真つきで、ご紹介したいと思います。

※)WEAAD の趣旨

INPEA が毎年 6 月 15 日を「世界で高齢者虐待を考える日」(WEAAD: World Elder Abuse Awareness Day)と定めた趣旨は、高齢者虐待が、「グローバルな社会問題」であるという認識を高めると同時に、効果的な対応の必要性を再確認し、この日を機会に、高齢者虐待の問題を予防する活動が、次の一年、さらに長期の目標に向けて推進するように、との願いから始めたものです。

(1)2009年6月14日(日)第4回「世界で高齢者虐待防止を考える日」開催報告



INPEA 日本国委員会は、今年は、日本高齢者虐待防止学会理事会企画ワークショップと同時開催で、2009年6月14日(日)の午後1時半から午後5時半までの約4時間、首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスで、第4回「世界で高齢者虐待防止を考える日」(WEAAD)のイベントを開きました。

<首都大学東京秋葉原キャンパスにて>

A. 13:30～15:30 の日本高齢者虐待防止学会理事会ワークショップ ＜「高齢期安心講座」 山口光治・坂田伸子先生＞

日本高齢者虐待防止学会理事会企画ワークショップは、日本高齢者虐待防止学会理事長である高崎絹子先生の開会のご挨拶の後、淑徳大学の山口光治先生(写真下左)と東洋大学の坂田伸子先生(写真下右)とが、「高齢期安心講座:自分らしく暮らすために～高齢期の自立と安心に向けて」というタイトルで、高齢者向けの虐待予防プログラムの実際について、参加者は、今回、自分自身が高齢者になったつもりで、演習を受けました。そして、後日、実際に職場や地域で、高齢者に



対して行う高齢者虐待防止のプログラムの進め方、使用する資料の使い方や順番、説明のしかた等、山口先生から丁寧な説明を聞くことができました。また、ワークショップの最後には、Q&Aの時間がもたれましたが、多くの方から質問が出て、本ワークショップに対する関心が非常に高かったことが伺われました。ワークショップで使用された、山口先生と坂田先生作成のパワーポイント資料は、両先生の許可を得まして、本ニューズレターと共に同封いたしましたので、

ご活用くださると幸いです。なお、ワークショップで使用された、虐待予防プログラムで実際に使う数々の資料等に関するお問い合わせは、山口先生へ直接お尋ね下さい。山口先生のメールアドレスは、ykoji@ccb.shukutoku.ac.jp です。塚田の手元にも、現在10人分くらいは余分がございますので、ご連絡下さい。

B. 15:40～17:30 の INPEA の WEAAD のイベント

＜「高齢者虐待対応の問題点:法律家の視点」 大石剛一郎先生＞

2時間の理事会ワークショップの後は、弁護士大石剛一郎先生(写真下)に、標記のタイトルで30分間ご講演くださいました。そして、同封いたしました資料に沿って、講演されました。特に印象的であったことは、虐待の通報は、「虐待者の処罰を目的とするものでも、金銭的な償いをさせようとするものでもない。虐待されている被害者を救済することが目的である」というお言葉でした。「だから、危険を感じたら、ためらうことなくできるだけ早い時期に通報をして欲しい。早ければ早いほど、虐待者がもし家族であれば、より早期の家族関係修復が可能となるからです」ということでした。大石先生のご講演も熱が入り、参加者の方々から講演後に多くの質問が出されました。終了予定の5時を20分遅れて、講演に関するQ&Aが終わりました。先生、時間が大幅にずれてすみませんでした。お忙しい中、ご講演くださりまして、参加者一同深く感謝致しております。



INPEAのイベントの司会は、INPEAアジア地域担当理事の多々良紀夫先生(淑徳大学大学院総合福祉研究科教授)が担当しました。最後8分間で、韓国で行われたKINPEA主催の第4回WEAADのイベントの紹介をいたしました(本スライド資料は、別添資料1をご参照下さい)。

<会場の皆様が熱心にワークショップや講演に聞き入る様子>



↑
四国からの参加者



熱心なグループ・ワーク →



←皆、笑顔→



↑





← ところで、シルバー新報さん、いつも 本当にさりげなく、貴新聞の中で INPEA の活動や、WEAAD の活動を適宜、ご紹介していただきましてありがとうございます。本紙面を持ちまして、心よりお礼申し上げます。

(2) 韓国版 INPEA の KINPEA(Korean Information Network for the Prevention of Elder Abuse) 主催の第 4 回 WEAAD(「世界で高齢者虐待防止について考える日」)のイベント参加

2009年6月8日(月)午後、韓国釜山市庁舎の国際会議室で開催された KINPEA(韓国 INPEA) が主催した第 4 回 WEAAD(World Elder Abuse Awareness Day)の式典とそのイベントの一環である、"Moving together for the Prevention of Elder Abuse between Korea and Japan" というテーマの国際会議(Round Table)に参加しました。そこには、韓国の高齢者虐待の研究に携わる研究者や学生、実務家や自治体の職員、高齢者等約200名が集まっていました(スポンサーは釜山市)。第一部の式典には、約 200 名の参加者が、また、第二部の国際会議にも約 100 名が参加していました。式典では、"Declaration for Promotion of Elderly Right(高齢者の人権擁護促進宣言)も採択されました。私は、INPEA 日本国委員会の代表として招待され、そのイベントに出席してきました。日本からは、他に、INPEA アジア地域代表理事多々良紀夫先生(淑徳大学大学院教授)と東京医科歯科大学教授佐々木明子先生が出席されました。また、ソウルからも研究者が参加されました。会議は、全て英語で行われ、我々の英語の発言は、韓国語に同時通訳されました。メディア(KNN)の取材も来ていましたが、それには、多々良先生が対応されました。



釜山市庁舎内国際会議場で開催された国際会議(Round Table)の様子: 左から、佐々木先生、塚田、多々良先生、司会者の Dr. Sung、一人おいて Dr. ハンで、彼女が韓国の INPEA の代表)

(3) フランスのパリで 7 月 5 日から行われた第 19 回世界老年大会について (XIX World Congress of Gerontology and Geriatrics)



4年に一度行われる、World Congress of Gerontology and Geriatrics(世界老年学大会)の第19回大会が、フランスのパリ凱旋門(写真左)から歩いて10分のところにある、Congress Center(会議センター)(写真左下)で7月5日(日)から9日(木)までの5日間、開催されました。毎回、世界中から5000人以上の人が集まるこの大会には、日本からも200名から250名参加しているそうです。私も、5日のINPEAのPre-conferenceに始まり、自身の研究発表と7つのシンポジウムに参加して大変有意義な時間を過ごしました。ここでは、そのINPEAのPre-Conferenceの様様を主に写真でご紹介いたします。下の写真が、大きな会議センターの概観とその入り口に配置されていて、会議センターの名前が書いてある物体(オブジェ)です。



＜パリにある会議センターの概観＞

センターの中に入ると、写真(左下)の大会用案内ブースが中央にあり、そこでの会話は英語でした。大会参加者は、その案内所で、大会受付に行くためには、右手に進むようアドバイスされ、20Mほど歩くと上に大きな横断幕(写真一番下)がかけられていて、エスカレーターで3階の大会受付に行くようになっていました。私は、パリ到着翌日の5日



早朝10時にこの案内所に立ち寄り、3階受付へ進みました。すると、3階の大会受付には、すでに多くの人たちが世界中から集まっていて、受付の順番を待っていました。私もアルファベットの「T」のラインに並んで、受付を待ちました。パスポートを見せ、受付が終わると、受付終了書をもって、今度は、大会関連の資料が入ったバッグを受け取るために、また別の窓口へ行く、という流れになっていました。



受付を済ませると、私は、早速、INPEA の第 4 回 WEAAD のイベント会場へ行きました。

写真右のチラシのデザインで、第 4 回の WEAAD のイベントが、フランスパリの本大会でも開催されました。皆様にはこの Pre-conference のプログラムを同封させていただきました。世界でも有数の学者たちがこの日に寄せて、スピーチをしていることがお分かりになると思います。

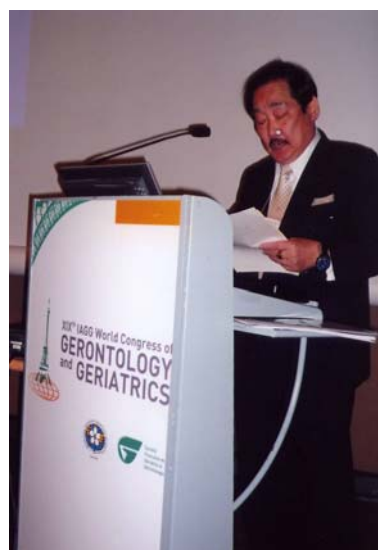
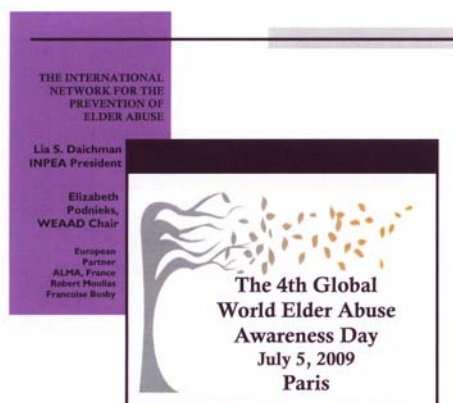
中でも、写真下は、INPEA の国際ネットワークの世界会長リア・ダイチマン医師です。



また、WHO の元高齢化プログラム責任者のアレクザンドレ・カラチ医師もオープニングのスピーチをしてくださいました。

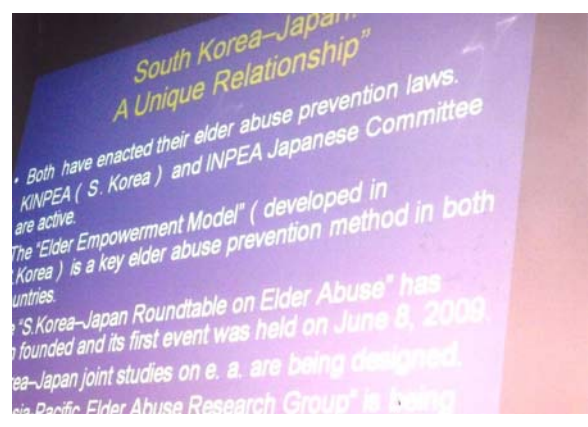


また、INPEA アジア地域代表多々良紀夫先生も → 講演をし、日本の高齢者虐待の実態について報告をしました。多くの講演を聞き、世界には、まだまだ非常に悲惨な高齢者虐待が起こっていることを再認識させられました。例えば、一番印象的であったのは、アフリカのある国では、年金が高齢者に等しく行きわたらない、など、極めて基本的な、国の制度の履行・管理運営さえもできていない事が明らかにされ、私を含めた参加者はため息をつきました。



← 会場は、この写真(左)のように、約 120 名以上の参加者の方々が、所狭しと席をうめ、後方入り口付近は立ち見となり、この Pre-Conference に熱心に聞き入っていました。午後の最初には、電子メールによる国際メールの転送を希望された方に、事前にご連絡をしていました、世界中の INPEA の第 4 回の WEAAD の取り組みが映画で放映されました。韓国の取り組みも放映されていました。

＜発表の中のいくつかのスライドの紹介：右下は多々良先生のスライド＞



Pre-conference の最後に、INPEA 日本代表塚田と韓国代表 Dr. ハンおよびアジア代表理事多々良先生とマレーシアの参加者などで記念写真を撮りました。



毎朝歩いたホテルから会議場までのフランスの町並み→

以上、今回のジャパン・ダイジェスト9号では、6月初旬に開かれた、韓国におけるWEAADのイベントと、INPEA日本国委員会の開催した6月24日(日)のWEAADのイベント、およびフランスパリで開催された第19回世界老年学大会の際に開かれた、世界INPEAの第4回WEAADのイベントの様子を簡単ですが、写真でご紹介いたしました。

次号は、来週7月25日(土)に名古屋で開催予定の第6回日本高齢者虐待防止学会(チラシを同封いたしました)の学会報告と、11月に米国アトランタ州で行われる米国老年学会での模様をお知らせする予定です。それでは、皆様、暑くなりましたので、くれぐれもご自愛下さいますように…。では、日本高齢者虐待防止学会第6回名古屋大会でお会いいたしましょう！

＜発信元＞

INPEA 日本国委員会代表 塚田典子
日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科
電子メール: tsukada.noriko@nihon-u.ac.jp
Tel: 03-5275-9430(研究室)
Fax: 03-5275-8386(講師室)
INPEA の URL : <http://www.inpea.jp>